

## トピックス

### ◎トルコ・シリア地震救援金

2023年2月6日、トルコ南部を震源とする巨大地震が発生。多数の建物が倒壊し、死者はトルコで5万人以上、シリアで6,700人以上に上った。多くの住民が家を失い、無人化が進む街もある。混乱のなか、身元が分からなくなって保護された子どもも多数いる。復興には長い時間がかかりそうだ。



を失い、無人化が進む街もある。混乱のなか、身元が分からなくなって保護された子どもも多数いる。復興には長い時間がかかりそうだ。

毎日新聞社と毎日新聞大阪、東京、西部社会事業団は2月10日から救援金を受け付け、大阪社会事業団には

**地震で壊れた住宅＝トルコ南部アンタキヤで23年2月7日、三木幸治撮影** 4月末までに869件2,548万円が寄せられた。第1次分として、このうち1,000万円をAMD A（岡山市）▽CODE海外災害援助市民センター（神戸市）▽国境なき医師団日本（東京都）▽難民を助ける会（同）▽国連UNHCR協会（同）――の5団体に贈った。

### ◎「公募助成金」を16団体へ290万円贈呈

歳末たすけあい運動と連動して、11月12日～12月16日の期間、応募を受け付け、1月31日に選考委員会を開き、下記16団体に総額290万円の贈呈を決定。

また、このうち「高齢者福祉特別枠」は、2021年度に寄託のあった遺贈金を基に新たに設けた。

〈公募福祉助成金〉愛知オルタナティブ協議会（名古屋市）▽ガリレオクラブインターナショナル（神戸市）▽サードプレイス（和歌山市）▽日本ダウン症協会富山支部（つなGO）（富山市）▽みみっとの会（岡山県笠岡市）▽ゆらいく大阪（大阪府熊取町）

〈高齢者福祉特別枠〉福祉サービスよってんか（大阪府箕面市）▽民謡・三味線 桜会（兵庫県姫路市）▽ラボラトリー・ワーク・グループ大阪（大阪市）

〈世界子ども救援金助成〉アジア子ども基金（神戸市）▽アフガニスタン女性支援プロジェクトEJAAD JAPAN（大阪府豊中市）▽Community Life（松山市）▽ST AND ALIVE（東京都町田市）▽ネパール・ヨードを支える会（兵庫県宝塚市）

〈シンシア基金助成〉人・モノ・支援センター（奈良県桜井市）▽兵庫介助犬協会（兵庫県西宮市）

## 各公益事業ごとの事業報告詳細

(千円以下を切り捨て表示しています)

### 公益事業 1 国内外の福祉に関する事業

一般寄付金は3月末現在で1,206件5,502万円(前年1,742件6,379万円)が寄せられた。

このうち歳末の「チャリティー名士寄贈書画工芸作品入札会」、7月の「特別即売会」の売上金は計1,373万円で、義援金898件1,028万円との合計は2,402万円。(前年比約600万円減となった)。

一方、指定正味財産の部では「小児がん征圧募金」に151件237万円(前年108件229万円)が寄せられた。これらの資金をもとに次の事業を行った。

#### 児童福祉に関する事業

##### 主催事業

##### ◎そよかぜ杯ボウリング大会 (支払負担金より37万円支出)

6月19日、大阪市の心斎橋サンボウルで近畿各地の交通遺児をはじめ、病気・災害遺児らとその家族など約60人が交流した。大阪交通遺児を励ます会と共催。

##### ◎「施設児童就職予定者研修会・施設から就職する生徒に祝い金贈呈」 (支払負担金より65万円支出)

大阪府下の児童福祉施設で暮らす高校生などを対象に、社会人としての心構えなどを学ぶ研修会を昨年7月から計14回行い、2月5日に閉講式を開催。高校、短大を卒業して就職する65人(対象者全員)に激励の意味を込めて祝い金を1人1万円ずつ贈呈した。大阪児童福祉事業協会アフターケア事業部、大阪府社会福祉協議会と共催。(研修会は1975年から、祝い金贈呈は1962年から実施)

##### 共催分担金事業

##### ◎「ゆうゆうキャンプ」 (支払負担金より10万円支出。予算40万円)

8月に、被虐待児童の社会性を養うため、1泊2日のキャンプをはじめ、日帰りハイキングなど年間3回の行事を実施する予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大のため、11月5日に貝塚市の大阪府立青少年自然の家で日帰りキャンプのみを実施した。大阪府青少年活動財団と共催。開催経費10万円を分担助成した。

##### ◎「第54回新春こども大会」 (支払負担金より5万円支出。予算10万円)

1月、大阪府が管轄する児童福祉施設の子どもたちが、冬休みに練習した踊りや演劇などを大阪府の市立こども文化センターで発表する予定だったが、新型コ

コロナウイルスの感染拡大防止のため中止。一部、絵画コンクールのみ実施した。大阪市、大阪市児童福祉施設連盟と共催。開催経費5万円を分担助成した。

◎小学6年生ハチ北林間ホーム→（代替行事「生駒山ハイキング」）

（支払負担金より3万円支出。予算10万円）

8月8～10日、大阪市管轄の児童福祉施設で暮らす小学6年生ら40人を、兵庫県香美町のハチ北高原に招待する予定だったが、新型コロナウイルスの感染拡大により規模を縮小し、2月23日、日帰りの生駒山ハイキングに変更することになった。大阪市、大阪市児童福祉施設連盟と共催。開催経費のうち3万円を分担助成した。

◎「第35回駅伝・ロードレース大会」

（支払負担金より5万円支出）

2月18日、大阪市が管轄する児童福祉施設の小・中学生約100人が参加する駅伝・ロードレース大会を、大阪府豊中市の服部緑地公園陸上競技場で実施。大阪市、大阪市児童福祉施設連盟と共催。

◎母の日・父の日募金キャンペーン

（支払助成金より56万円支出）

「プレゼントをあげる親がもういない」との声をきっかけに、親を亡くしたり、一緒に暮らせない子どもたちを支援するキャンペーンで、5月3日と6月17、18日付朝刊で募金を呼びかけ、9月に、あしなが育英会に26万円、CVV（社会的養護の当事者支援団体）、子どもセンターぬつく、チャイルド・リソース・センターに各10万円の合計56万円を贈呈した。

児童福祉特定団体助成・支援事業（文末のカッコ内は：支払助成金または経費）

\*琵琶湖セツルの家＝7月1日～8月31日、滋賀県大津市の琵琶湖畔に宿泊施設を開設、新型コロナウイルスの感染予防対策を施し、保育所、児童館、子どもの家などの利用者に開放した。大阪市地域福祉施設協議会の主催。本団が単独で助成後援した。（8万円）

\*母と子の一泊旅行＝7月2～3日、大阪府下の母子寮の親子40人を、和歌山県の白浜温泉と白浜アドベンチャーワールドへのバス旅行に招待した。大阪府民間母子生活支援施設連絡協議会の主催。本団は単独で助成後援した。（28万円）

\*里親ふれあいキャンプ＝8月16～18日、小学1年生以上の里子を対象としたキャンプ。徳島県阿南市のYMCA阿南国際海洋センターで開催。毎日新聞社とともに愛の手運動（里親さがし運動）を展開する家庭養護促進協会が主催。本団が単独で助成後援した。（18万円）

\*第69回児童福祉施設スポーツ大会＝8月17～18日、名古屋市管轄の児童養護施設で暮らす児童・生徒の野球、ソフトボールの大会。大高緑地公園野球場で開催。名古屋市、同市社会的養護施設協議会が主催。費用の一部を助成後援した。（1万円）

**\* 「自立支援プログラム いずみサロン」**

10月～2月、名古屋市内の児童養護施設で暮らす中学2年生以上を対象に、自立支援のための調理実習や職業体験、カウンセリングなどを実施。就労支援事業サポートいずみが主催。費用の一部を助成後援した。(39万円)

**\* 「第49回北摂子ども大会」代替事業「北摂秋の作品展」「ガンバ大阪サッカースクール」**

毎年12月に北摂地域の児童養護施設などに暮らす子どもたちがスポーツを通じて日ごろの成果を披露する「北摂子ども大会」の代替事業として次の2事業を実施した。12月1日～2月末、児童が作った工作、絵画、和歌・俳句、写真、動画などを高槻市内の施設で展示し選考委員による各賞を選出する「北摂秋の作品展」。12月3日、パナソニックスタジアム吹田でサッカーの基礎知識などを選手やOBから教わり、記念撮影やスタジアム見学など貴重な体験をする「ガンバ大阪サッカースクール」。いずれも北摂児童施設連盟の主催。本団が単独で助成後援。(10万円)

**\* 児童福祉施設に絵を贈る運動**＝12月末、子どもたちの情操教育の一環として「チャリティー名士寄贈書画工芸作品入札会」に寄せられた作品から絵画6点を愛知・岐阜・三重県内の児童養護施設に贈った。

## 医療福祉に関する事業

**◎ 「小児がん征圧キャンペーン」 (支払助成金より845万円支出)**

1996年から毎日新聞社と展開している「生きる－小児がん征圧キャンペーン」と連動した「小児がん征圧募金」には、3月末日までに151件237万円(前年108件229万円)が寄せられた。3月14日に贈呈式を開き、次の13団体に各65万円ずつ計845万円を贈呈した。

1. チャイルド・ケモ・サポート基金(神戸市)
2. 日本クリニクラウン協会(大阪市)
3. 近畿小児血液・がん研究会(大阪府吹田市)
4. 京都大学医学部附属病院小児科ボランティアグループ  
「にこにこトマト」(京都市)
5. 京都ファミリーハウス(京都市)
6. あいち骨髄バンクを支援する会(名古屋市)
7. 守口ぶどうのいえ(大阪府守口市)
8. T S U R U M I こどもホスピス(大阪市)
9. しぶたね(大阪府大東市)
10. ふくぷくばるーん(名古屋市)

11. 名古屋小児がん基金（同）
12. 三重大学病院小児科父母の会・ひだまり（三重県鈴鹿市）
13. 京都・がんと生殖医療ネットワーク（京都市）

**◎コロナ対策医療支援金**（支払助成金より200万円支出）

医療従事者を広範に支援するため、「コロナ対策医療支援金」の募集を2020年5月4日付朝刊から開始した。10月25日に第6次贈呈分として大阪府へ100万円、兵庫県と愛知県にそれぞれ50万円の計200万円を寄託。2020年からの贈呈総額は5,100万円となった。

## 高齢者福祉に関する事業

**◎配食サービス車贈呈事業**（支払助成金より183万円支出）

国際高齢者年の1999年から始まった「配食サービス車贈呈事業」は、2月末から毎日新聞紙上などで公募し、6団体から応募があった。6月23日、学識経験者らによる選考委員会を開き、京丹波町社会福祉協議会に贈呈が決定。11月30日に現地で贈呈式を行った。今回で36台目の贈呈となる。

**◎「公募福祉助成金・高齢者福祉特別枠」**（支払助成金より50万円支出）

2021年度に寄託のあった遺贈金を基に2026年度までの5年間、公募福祉助成金に「高齢者福祉特別枠」を設け、一般公募による事業助成をする。

1. 福祉サービスよってんか（大阪府箕面市）
2. 民謡・三味線 桜会（兵庫県姫路市）
3. ラボラトリー・ワーク・グループ大阪（大阪市）

## 心身障害者福祉に関する事業

### 共催分担金事業

**◎第25回視覚障害者ICT・サポートボランティア講習会**

（支払負担金より30万円支出）

1997年度からの継続事業で、視覚障害者の情報環境を支えるICT（インフォメーション・コミュニケーション・テクノロジー）機器を利用する視覚障害者に操作方法などを教える指導者養成のための講習会。受講生を公募し、Zoomによるオンラインの接続方法やiPhoneの機能など、最新のICT機器について学ぶ。日本ライトハウス情報文化センターと共催。

- ・① 5月7日 開講式、iPad基礎講習会、10人
- ・② 5月28日 サピエ活用講習会、7人
- ・③ 6月25日 iPhone活用講習会、11人
- ・④ 6月25日 ブレイルセンスシックス・シックスミニ体験会、7人

- ・⑤ 7月16日 インターネット活用講習会、5人
- ・⑥ 8月6日 ハロームービー体験会、5人
- ・⑦ 8月20日 iPhone活用講習会、11人
- ・⑧ 9月3日→11月20日に変更 iPhone体験会、10人
- ・⑨ 10月22日 パソコン用フリーソフト体験会、11人
- ・⑩ 11月26日 ipad/iPhone体験会、7人

◎第35回専門点訳・音訳講習会 (支払負担金より100万円支出)

専門書の点訳、音訳の技術を修得するための講習会。受講後は点訳・音訳ボランティアとして活躍。日本ライトハウス情報文化センターと共催。

専門音訳講習会

- ・「古典コース」6月25日～7月30日 全6回、16人
- ・「小説の読み方コース」8月4日・26日 各回12人、計24人
- ・「東洋医学コース」9月2日～10月14日 全6回、9人

専門点訳講習会

- ・「UEB英語コース」5月28日～8月27日 全6回、17人
- ・「写真・図・イラストコース」9月6日～27日 全4回、13人
- ・「教科書・教材点訳入門コース」9月24日・10月1日 全2回、17人

◎「声の点字毎日」の発行 (支払負担金より5万円支出)

全国の国立ハンセン病療養所8カ所で生活している視覚も皮膚感覚も失った人たちに点字毎日の「声の点字毎日デイジー版(月2回発行)」を寄贈する事業。費用の一部を、東京・西部社会事業団とともに5万円ずつ分担した。

◎第90回全国盲学校弁論大会 (支払負担金より20万円支出)

10月7日、岡山県立岡山盲学校で開かれ、神戸市立盲学校高等部3年の浅井花音さん(18)が優勝した。毎日新聞社点字毎日、全国盲学校長会と共催。本団は2002年度から共催に加わった。東京社会事業団も20万円、西部社会事業団は10万円を分担した。(1928年～)

心身障害者特定団体助成・後援事業(文末のカッコ内は:支払助成金)

\*第57回全大阪ろう社会人軟式野球秋季大会=7月3、10、17日、大阪府久宝寺緑地公園軟式野球場などで開催。本団が助成後援した。(レプリカ代1万円)

\*第47回わたぼうし音楽祭=奈良県文化会館で8月1日に開催予定だったが、新型コロナウイルスの感染拡大のため、インターネットLIVE動画配信に変更して12月11日に実施した。(大阪社会事業団20万円・東京社会事業団10万円・西部社会事業団5万円)

\*第48回愛知心理療育キャンプ=7月17日、8月20～21日、9月18日、10月16日に愛知県豊明市の豊明共生交流プラザ、同刈谷市の愛知教育大学特別支援教育棟で開催した。助成後援した。(3万円)

**\* 名古屋市視覚障害者協会の機関紙「のぞみ」第43号発行**

1月に発行した上記製作費用を助成した。(3万円)

**その他の社会福祉事業団体の事業助成**

**◎「公募福祉助成金」 (支払助成金より100万円支出)**

国内外の地域で福祉活動に取り組む団体や先駆的事业でどこからも援助がない団体などを一般公募し事業助成する。11月12日～12月16日の期間、応募を受け付け、1月31日に選考委員会を開き下記6団体に総額100万円を助成した。

1. 愛知オルタナティブ協議会 (名古屋市)
2. ガリレオクラブインターナショナル (神戸市)
3. サードプレイス (和歌山市)
4. 日本ダウン症協会富山支部 (つなGO) (富山市)
5. みみっとの会 (岡山県笠岡市)
6. ゆらいく大阪 (大阪府熊取町)

**その他目的を達成するに必要な事業**

**◎「歳末たすけあい運動」**

11月12日～12月23日に義援金を募集し、12月には「チャリティー名士寄贈書画工芸作品入札会」を開いた。

**\*「義援金募集」**

社告掲載やこれまでの寄付者などへのダイレクトメールで義援金を募った。義援金は898件1,028万円(前年1,068件1,331万円)が寄せられた。

**\*「チャリティー名士寄贈書画工芸作品入札会」**

12月9日～11日、毎日新聞ビル地下1Fオーバルホールで開催。売り上げは1,082(同1,696)万円となった。

また、総合デザイナー協会(DAS)の協力で、家事や家族の介助を日常的に行う若者(ヤングケアラー)を援助する「DASコーナー」を設け、売り上げなどから10万円を当事者団体「ふうせんの会」へ贈呈すると共に、80万円を歳末慰問金として次の8団体に配分した。

**(支払助成金より80万円を支出)**

- |                          |      |
|--------------------------|------|
| 1. 大阪子どもの貧困アクショングループCPA0 | 10万円 |
| 2. 大阪更生保護施設連盟            | 5万円  |
| 3. 大阪家庭少年友の会             | 5万円  |
| 4. こどもの里                 | 5万円  |
| 5. ふうせんの会                | 10万円 |
| 6. 真盛学園(児童養護施設・三重県津市)    | 15万円 |
| 7. 大野慈童園(同・岐阜県大野町)       | 15万円 |
| 8. 風の色(同・愛知県東浦町)         | 15万円 |

\* 創立110周年記念「チャリティー特別即売会」＝本団創立110周年記念事業として、過去数年にわたり「チャリティー名士寄贈書画工芸作品入札会」に寄せられた作品の在庫蔵出し即売会を7月2日、毎日インテシオ4階の特設会場で開催した。287点275万円の売り上げがあった。

◎ 毎日社会福祉顕彰 (支払負担金より127万円支出)

本団創立60周年記念事業として始まり、52回目。毎日新聞紙上等で公募し、5月末に応募を締め切り、次の1個人・2団体が選ばれた。

◇ 中西正司さん＝特定非営利活動法人ヒューマンケア協会代表(東京都八王子市)

学生時代の事故で四肢まひとなり1986年、障害者仲間と同協会を設立。介助や自立生活プログラムの提供、障害者によるカウンセリングを障害者主体の組織で展開し、当事者が支援の担い手として社会を動かすモデルをけん引してきた。障害者自立支援の拠点となるセンターは全国110カ所以上に広がった。

◇ 特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス (京都市)

2001年の設立以来、東南アジアやアフリカで地雷撤去活動の支援を続け、子ども兵士や女性の職業訓練による社会復帰と自立を支援。国内では、東日本大震災で被害を受けた岩手県大槌町で、地元の工芸品「大槌刺し子」を活用した復興支援にも関わっている。近年は、平和実現のための政策提言にも力を入れている。

◇ 社会福祉法人福岡ろうあ福社会 (福岡市)

前身は福岡盲啞学校の開校を目指して1909年に設立した社団法人「福岡県盲啞教育慈善会」で、国の障害者施策が整う前から先駆的な事業を展開してきた。利用者が手話を用いて過ごせる障害者支援施設「工芸会ワークセンター」や聴覚・言語障害者の養護老人ホーム「田尻苑」を運営。

◎ 「指定寄付金事業」 (支払助成金より9万円を支出)

寄付金の中で助成先が特定された寄付金。「愛の手運動に」「あしなが育英会に」など9件9万円が寄せられた。

◎ 機関紙「そよかぜ」の発行 (印刷製本費より18万円を支出)

「そよかぜ」55号を製作し、6月1日に1万部を発行。寄付者や関係機関・団体等に送付した。



## その他の名義後援事業

とき	案件名	ところ
4月～2024年3月	関西いのちの電話 第58期「電話相談ボランティア養成講座」	大阪市淀川区、社会福祉法人博愛社5階会議室など
4月3、17、24日	「第59回全大阪ろう社会人軟式野球 春季大会」	大阪府営久宝寺緑地軟式野球場、寝屋川公園第1野球場、大阪市長居公園野球場
4月10日	「第42回愛知県聴覚障害者体育大会」	安城市総合運動公園、知立イーグルボウル
4月16日、5月7、21、22、29日	「令和4年度愛知県障害者スポーツ大会」	名古屋市千種区の星が丘ボウル、豊田市運動公園陸上競技場・球技場など
4月20日～11月20日	「第19回名古屋市障害者スポーツ大会」	名古屋市の小幡緑地公園球技場・野球場、パロマ瑞穂北陸上競技場など
5月～11月	「第59回点字毎日文化賞」	毎日新聞東京本社
5月22日	「介助犬フェスタ2022～オンライン開催～」	介助犬総合訓練センター～シンシアの丘～(愛知県長久手市)よりオンライン配信
5月26～28日	「ウェルフェア2022～福祉・医療・健康の総合展～」	吹上ホール(名古屋市中企業振興会館:名古屋市千種区)
5月31日	「第75回全国視覚障害者福祉大会(名古屋大会)」	ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋(名古屋市中区)
6月8～10日	「バリアフリー2022」ー第28回 高齢者・障がい者の快適な生活を提案する総合福祉展ー	インテックス大阪(大阪市住之江区)
6月18、19日	「第33回東海聴覚障害者体育大会」	グリーンパレス春日井体育館、小牧勤労センターグラウンドなど。
6月19日	「～日本ライトハウス創業100周年記念～第40回日本ライトハウスチャリティコンサート」	ザ・シンフォニーホール(大阪市北区)
7月3日	「第38回愛知県聴覚障害者大会」	豊川市勤労福祉会館(愛知県豊川市)
7月3日～2023年2月5日	2022年度「児童養護施設等入所児童及び里親委託児童に対する自立生活技術講習会(ソーシャル・スキル・トレーニング)」事業	シェラトン都ホテル大阪(大阪市天王寺区)
8月3～7日	「第43回子どもたちの讃歌展」	大阪府立江之子島文化芸術創造センター(大阪市西区)
8月5日	「令和4年度 全日本特別支援教育研究連盟 第59回近畿特別支援教育連絡協議会 大阪市大会」	大阪市立こども文化センター(大阪市此花区)
10月15、16、22日	「第40回スポーツフェスタ2022大阪」	ヤンマーフィールド長居(長居第2陸上競技場:大阪市東住吉区)など
10月15日	「素のままフェスタ2022」	豊中市立文化芸術センター(アクア文化ホール)
11月19日	「第56回肢体不自由児者を支援するチャリテ	八尾市山城町1、第1公園(買物公

	イバザー」	園)
2022年11月20日	「第67回名古屋市身体障害者福祉大会」	名古屋市公会堂4階中ホール(名古屋市昭和区)
11月25日	「令和4年度大阪府社会福祉大会」	大阪国際交流センター・大ホール(大阪市天王寺区)
11月26日	「2022年度 医療社会事業従事者講習会」	オンライン(ZOOM)
12月11日	「第61回愛知県身体障害者福祉大会」	知多市勤労文化会館(愛知県知多市)
12月18日	「日本テレマン協会 チャリティーコンサート」	大阪市中央公会堂大集会室(大阪市北区)
12月22日	「愛知県社会福祉協議会設立70周年記念・第70回愛知県社会福祉大会」	ドルフィンズアリーナ(愛知県体育館:名古屋市中区)
23年2月5日	「第50回全大阪ろうあ者ミニ文化祭」	大阪市長居障がい者スポーツセンター(大阪市東住吉区)
2月7～12日	「第57回名古屋市障害者作品展示会」	名古屋市博物館 ギャラリー第1、2、3、4、8室(名古屋市瑞穂区)
3月3日	「～日本ライトハウス創業100周年記念～第40回日本ライトハウスチャリティコンサート」	ザ・シンフォニーホール(大阪市北区)
3月11日	令和4年度 合同求人説明会「福祉の就職総合フェア SPRING in OSAKA」	OMM2階(大阪市中央区)
3月12日	「第41回耳の日記念聴覚障害者と県民のつどい」	Home & nicoホール(江南市民文化会館:江南市)

## 公益事業 2 シンシア基金事業

### ◎シンシア基金 (支払助成金より9万円を支出)

身体障害者をサポートする介助犬への理解を深め、育成や研究活動に役立てるため、1998年から阪神支局が始めたキャンペーンと連動して募金を呼びかけた。

3月末日までに寄せられた「シンシア基金」は37件675万円（前年26件181万円）となった。

身体障害者補助犬（盲導犬・介助犬・聴導犬）の社会的認知を促進するため、毎日新聞社や兵庫県宝塚市などが主催する「第24回身体障害者補助犬シンポジウム」を宝塚市のプレミア宝塚で11月26日に開催。経費として9万円を支出した。

### ◎シンシア基金公募助成 (支払助成金より40万円を支出)

身体障害者補助犬の育成や支援に関わる団体などに公募助成する。

歳末たすけあい運動と連動して、11月12日～12月16日の期間、応募を受け付け、1月31日に選考委員会を開き下記2団体に総額40万円を助成した。

1. 人・モノ・支援センター（奈良県桜井市）
2. 兵庫介助犬協会（兵庫県西宮市）

### その他の名義後援事業

◇「介助犬フェスタ2022」を名義後援＝5月22日、愛知県長久手市の介助犬総合訓練センター シンシアの丘からインターネットLIVE動画配信で実施した。日本介助犬協会の主催。

## 公益事業 3 災害救助に関する事業

### ◎東日本大震災救援事業

#### \* 東日本大震災救援金 (支払助成金より57万円支出)

3月末日までに20件45万円（前年32件52万円）が寄せられた。3月に第21次分として、前年度からの繰越金と併せて57万円を、宮城県に贈呈。寄託総額は4億7,496万円となった。

#### \* 毎日希望奨学金 (支払助成金より4,464万円支出)

東日本大震災で保護者を亡くした震災遺児の学業を支える「毎日希望奨学金」（毎日新聞大阪・東京・西部社会事業団、毎日新聞社で創設）は12年目を迎えた。3月末日までに530件1,250万円（前年712件2,027万円）が寄せられた。昨年3月16日付朝刊で「奨学生募集」の社告を掲載し、50人の募集枠に対して49人が応募。5月16日、有識者らによる選考委員会が開かれ、49人に支給が決定。奨学生数は継続者とあわせて187人、最終的に支給した人数は186人となり、今年度の支給額は4,464万円。2011年度からの支給総額は5億7,708万円となった。

・ 4月25日、138人（4、5、6月分）	828万円
・ 6月24日、48人（4、5、6月分）	288万円
・ 7月25日、186人（7、8、9月分）	1,116万円
・ 10月26日、186人（10、11、12月分）	1,116万円
・ 1月25日、186人（1、2、3月分）	1,116万円

合計4,464万円を支給

## 公益事業 4 国際協力に関する事業

### ◎世界子ども救援キャンペーン （委託費より205万円を支出）

国際児童年（1979年）に毎日新聞社との共催で「飢餓・貧困・難民救済キャンペーン」としてスタート。記者を海外に派遣し、帰国後の紙面展開で苦境にある子どもたちの現状を克明に報じると共に救援を呼びかける。

今年度は毎日新聞大阪本社社会部と写真部の記者を、ロシアのウクライナ侵攻でウクライナを逃れてきた母子ら取材するために、隣国モルドバへ5月19日から7月15日まで派遣した。帰国後「離散 モルドバ報告」のタイトルで連載や特集紙面化をした。2022年3月に取材費（予防接種費用など）12万9,455円（2021年度経費計上）を支出しているので、総額は218万1,185円となる。また、東京社会事業団も3月にポーランドへ取材陣を派遣したため、モルドバ派遣分は本団が費用を全額負担した。

### \* 「世界子ども救援金」

3月末日まで700件1,735万円（前年599件1,001万円）が寄せられた。

広く一般から申請を受け付ける「公募助成」と、今回のキャンペーンで紙面掲載された地域や団体を対象とした「取材地助成」、これまでの取材地で引き続き援助が必要と判断された「継続助成」の3つの支援を行った。

### ◎「公募助成」 （5団体に支払助成金より100万円支出）

海外での支援活動を行う民間団体やそれに準じる団体に公募助成する。

歳末たすけあい運動と連動して、11月12日～12月16日の期間、応募を受け付け、1月31日に選考委員会を開き下記団体に総額100万円を助成した。

1. アジア子ども基金（神戸市）
2. アフガニスタン女性支援プロジェクトEJAAD JAPAN（大阪府豊中市）
3. Community Life（松山市）
4. STAND ALIVE（東京都町田市）
5. ネパール・ヨードを支える会（兵庫県宝塚市）

◎「取材地助成」	(5団体へ支払助成金より1,150万円支出)
1. 国連UNHCR協会(東京都)	500万円
2. 日本ユニセフ協会(同)	250万円
3. 難民を助ける会(AAR)(同)	250万円
4. UNDP(国連開発計画)(同)	100万円
5. TMA T(同)	50万円

◎「継続助成」	(1団体へ支払助成金より20万円支出)
1. 日本国際ボランティアセンター(JVC)(東京都)	20万円

2022(令和4)年度事業報告には「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2023(令和5)年5月  
 公益財団法人 毎日新聞大阪社会事業団  
 以上